

平成30年12月19日

秩父市議会議長 木村隆彦様

まちづくり委員長 黒澤秀之

まちづくり委員会行政視察報告書

- 1 期 日 平成30年10月2日（火）～4日（木）
- 2 視察先 大分県日田市、福岡県みやま市、福岡県小郡市
- 3 参加者 委員長 黒澤秀之 副委員長 出浦章恵
委員 清野和彦 委員 江田徹
委員 本橋貢 委員 松澤一雄

4 視察目的

大分県日田市 「森林・林業・木材産業の振興」

○ 市の概要

日田市は大分県の西部、福岡県と熊本県に隣接した北部九州のほぼ中央に位置し、周囲を阿蘇、九重山系や英彦山系の美しい山々に囲まれ、これらの山系から流れ出る豊富な水が合流する日田盆地と緑豊かな森林や丘陵地で市域が形成されている。気候は、内陸特有の性質から寒暖の差が大きく、雨量も多いことから、四季の移ろいがはっきりしているといった特徴がある。

古くから北部九州の各地を結ぶ交通の要衝として栄え、江戸時代には幕府直轄地・天領として西国筋郡代が置かれるなど、九州の政治・経済・文化の中心地として発展した。当時の歴史的な町並みや伝統文化は今なお脈々と受け継がれており、私塾「咸宜園」や塾と共生したまち「豆田町」等が教育遺産群として日本遺産に認定されているほか、「日田祇園の曳山行事」はユネスコ無形文化財に登録されている。

○ 事業の概要

平成27年3月、今後の森林・林業・木材産業のあるべき姿の将来像等を明確にするため、日田市の最上位計画となる「第5次日田市総合計画」にもとづく、林業振興分野の個別計画として、目指すべき森林の姿と基幹産業である林業・木材産業振興の基本的な指針となる「新しい日田の森林・林業・木材産業振興ビジョン」（略称「日田もりビジョン」）を策定。森林



等の山づくり・林業に関わる部分を「森林（もり）を守り・育てる」、木材産業に関わる部分を「森林（もり）を活かす」、木育をはじめとした市民協働、地域活性化、担い手の育成についてなどを「森林（もり）でつながる」という3つのテーマに区分けを行い、それぞれについて基本方向、基本施策を整理し実施しているところである。

福岡県みやま市 「スマートエネルギーの取組」

○ 市の概要

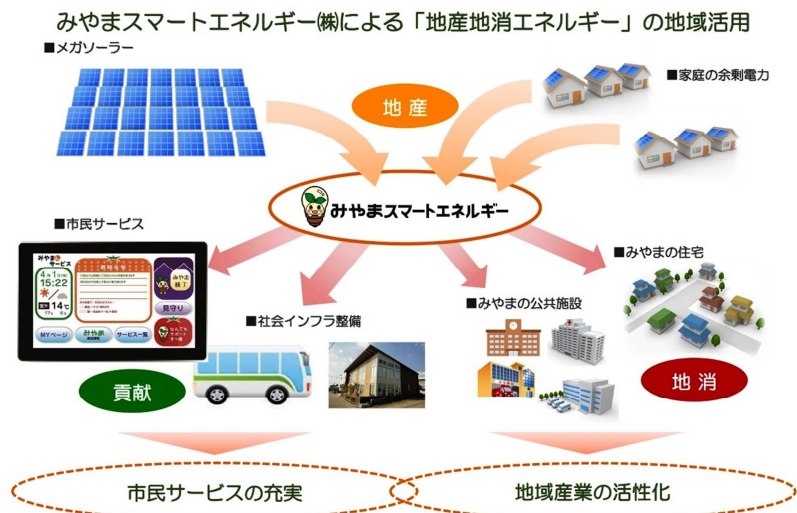
みやま市は福岡県の南部に位置し、北九州市の南約100km、福岡市の南約50km、久留米市の南約20kmに位置する。一級河川矢部川を挟んで柳川市、筑後市と、矢部川の一部と市東部の山間部で八女市と、隈川や市南東の山間部で大牟田市と、また市南東部では熊本県玉名郡南関町および和水町とも隣接する。市域の多くは筑紫平野（筑後平野）に含まれる平地となっており、市の南西部は有明海に面する。

基幹産業は農業で、瀬高町東部および南部から高田町にかけては主に米作、瀬高町北部ではハウス農業で、なすやセロリの栽培が盛んに行われている。市の東部を南北に貫く九州自動車道の東側および旧山川町域の大部分は山地となっており、この地域ではみかんを中心とした柑橘類の生産が盛んである。南部の有明海に面する地域では海苔養殖を含めた漁業も行われている。また、古くは矢部川を水上交通路として利用したり、街道が通るなど陸上交通の要衝であったために、瀬高町上庄下庄の両地区は古くより市街化し宿場町として栄え、現在も酒造が盛んである。市内において瀬高町の下庄上庄の両地区に市街地が形成されている。

○ 事業の概要

みやまスマートエネルギーは、みやま市が中心となって、2015年2月に設立した民間企業であり、資本金2,000万円のうち55%をみやま市、5%を筑邦銀行、40%を地元企業・九州スマートコミュニティが出資する。

同社は、エネルギーの地産地消による地域経済活性化と、公共エネルギーサービスによ



る地域問題の解決を目的に設立された。地域のなかで、市民と一緒にエネルギーを作り、それを販売した収益を活用し、高齢者の見守りサービスなど生活支援サービスに役立てている。一連の事業活動を通じ、地元の企業・商店の産業振興につなげていくと同時に地場雇用の創出に重点をおいた事業活動を行っている。市民に住んでいて良かったと思っただくとともに、一端、市を離れた人にも帰ってきてもらえるような街を目指し、同社が、その呼び水になればと期待されている。みやまスマートエネルギーにおける電力の販売先は、みやま市内を中心としながらも、「JR九州」が駅で使う電力の約3分の2を供給するなど九州全域におよぶ。2016年4月には、電力小売事業に新規参入した東京都環境公社と協定を結び、同公社の需給管理をサポートする技術支援も行っている。

福岡県小郡市 「都市計画マスタープランの策定」

○ 市の概要

小郡市は福岡県の南部、筑紫平野の北、佐賀県との県境に位置し、南東を大刀洗町と久留米市に、西は佐賀県、北東は筑紫野市と筑前町にそれぞれ接している。東北の台地には標高130.6mの花立山があり、西北丘陵地帯は、なだらかな丘陵が連なりため池が点在している。また、市の中央部を南北に貫流する宝満川を挟んで、西側に住宅地帯、東側に田園地帯が広がっている。歴史は古く、縄文期以降の三沢遺跡、花立山古墳をはじめとして数多くの遺跡、古墳などが散在し、日本書記に「筑紫小郡」が記されている。筑前、筑後、肥前の境界に位置し、大宰府にも近く、古くから交通の要衝であり、奈良時代には「小郡官衙（かんが）」が置かれ、江戸時代には「坊の津街道」「筑前街道」が松崎周辺を通過し、宿場町として栄えていた。大正13年には西鉄大牟田線の福岡、久留米間が開通。昭和30年に三国村、立石村、御原村、味坂村の1町4村が合併し小郡町になった。人口急増により昭和47年に市制を施行し、その後も、市北部の住宅開発等により人口の増加が続いている。

○ 事業の概要

交通利便性の良い西鉄天神大牟田線沿線を中心に宅地開発が進められ、その結果、旧来の農村型都市から住宅都市へと変貌してきた。誰もが暮らしやすく、環境負荷の少ない都市形成を目指し、高水準の都市的サービスを提供することによる都市活動の維持を行っていくことや、田園地帯をはじめとする豊かな自然環境、交通利便性などの地域特性を有効に活用していくことが重要であり、平成16年に策定した都市計画マスタープランの理念を継承しつつ、新しい視点を加え「個々を育み共に創る生活緑園都市」を基本姿勢としている。

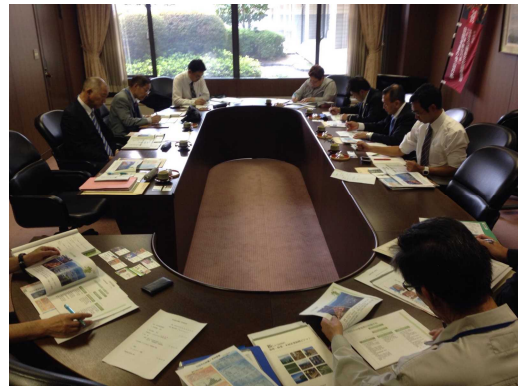
都市計画マスタープラン策定にあたって、「住民の方々の意見を反映した計画づくり」を基本的な取り組み方針とし、公募による79名の市民の参加のもと「まちづくり会議」を組織化。また、学生・事業所・各種団体等を対象とした「市民意向調査」を実施するとともに、会議結果や調査結果を広報や「おごおりまちづくりニュース」として発行し、市民に広く紹介することで市民参画による『小郡市の20年後の将来におけるあるべき姿』を描き、都市計画マスタープランに反映させている。

【まちづくり委員会行政視察を終えて 黒澤秀之】

まちづくり委員会として、今後の秩父市における森林・林業・木材産業の振興、スマートエネルギーの取組、都市計画マスタープラン策定における先進自治体として、大分県の日田市、福岡県みやま市、小郡市の行政視察を行った。日田市は、豊富な人工林資源に恵まれ、7つの木材市場や50を超える製材所・木工所、木質バイオマス発電設備、林業高校など、林業・木材産業に関わる様々な分野・業種が集まる「木のまち」として日本有数の林業地であり、最先端の林業産業振興における取り組み事例は、秩父市としても大変に参考になった。森林組合が2つあることで、両組合が林業振興に切磋琢磨する風土が息づいている。みやま市は、このほど秩父市において出資・設立した秩父新電力株式会社における将来の取り組みを推考するうえで、大変に参考となる先進自治体である。地域内にある潜在的エネルギー資源を地域内で循環することで、雇用や福祉の創出、向上が図れる好事例として、大変に参考になる自治体である。秩父市における潜在的エネルギー・資源は、みやま市に比べ、良質である点においては、秩父新電力株式会社におけるポテンシャルは高いと実感する視察となった。小郡市は、秩父市と比べその歴史や都市形成そのものが異なる自治体ではあったが、都市計画マスタープランの策定から検討、体系化する文章校正に至る過程において、市民参画のまちづくりを基本としている点において参考になる事例であった。平成33年からの秩父市都市計画マスタープラン策定にあたって、基本スタンスを明確にする必要があると実感した視察となった。

【日田市の林業振興の取り組みについて 出浦章恵】

日田市は、林業の担い手を育てながら森を守る森林組合、林業で、多くの雇用を創出している。市内に60を超える製材所があり、それぞれの個性を生かした事業が展開されている。日田市には、江戸時代からの歴史を刻む日田下駄に、戦後、木工のろくろ技術から発展し分業ならぬ一社完結のものづくりという独自の世界を持っていると言われる日田家具がある。また、未利用資源を有効活用するバイオマス発電も行っていて、まさにエネルギーの地産地消が確立された事業に驚かされた。



山を守るということは、くらしの中で木が使われ、生かされることであり、私たちと森林が深く繋がっているのだということ、あらためて考える機会となった。

多くの方が視察に訪れるという、また教育の分野からの視察もあるという日田市には、今、日本全体が向き合っているテーマが凝縮されているからだと言われている。

秩父市でも、多くの地域と同様に、山に手を入れることが困難となっている現状にある中、日田市の人々が遠い昔から山、木、水にかかわって生きてきた壮大な歴史を学ばせていただいた。

【 みやま市が取り組むエネルギー政策 清野和彦 】

エコロジカルで持続可能なまちづくりは時代の要請であり、さらなる技術の革新によって小規模分散型のエネルギー需給の主流化が、世界的に近い将来にやってくるだろう。そのような中で、みやま市が進めるエネルギー戦略とそれに基づく事業は、これからの日本の地域社会、地域経済のあり方に対して、大きなインパクトを与える可能性に満ちた事業であると考えている。

市内のメガソーラーや家庭用太陽光発電などから発電された電力を、みやま市と共同出資者によって設立された特定規模電気事業者（PPS）である「みやまスマートエネルギー株式会社」が調達し、市役所をはじめとする公共施設、民間事業所、一般家庭に供給することで、今まで地域外へ流出していた電気を買うためのお金を地域内で循環、再投資させ、地域の抱える課題解決や、新たな雇用、産業の創出を意欲的に目指す事業である。

人口構造の変化により、今まで通りの地方自治体の財政運営では、将来において市民が求める公共サービスの質と量を確保し続けることができるのか、という不安がある中、新たな仕組みづくりが必要と考えている。みやま市の取り組みにはローカルなエネルギー需給ビジネスをハブとする新しい公共の姿を見出すことができる。みやま市とともに「みやまスマートエネルギー株式会社」を立ち上げた実績と知見を持つ「みやまパワーHD株式会社」の強力な支援を受けて、この度、秩父新電力会社の設立に至ったことに大きな意義を感じている。

秩父新電力会社事業が市民により大きな恩恵を与えるものとなるよう提言していきたい。

【 まちづくり委員会行政視察 江田 徹 】

今回、まちづくり委員会の行政視察を大分県日田市、福岡県みやま市、福岡県小郡市にて行ったので、各市別に報告をする。

大分県日田市は、森林、林業、木材産業の振興に力を入れている。特に木材加工では主流となっている、全国への製材所から来る、さまざまなニーズに応えられる木材をウッドコンビナート（林業特化工業団地）内の7つの原木市場に、高い集荷能力を誇り、木材のサイズによりきめ細やかな選別ができるシステムを採用していた。また、加工、選別後の木材は全国への出荷だけでなく、地消も積極的に行われており、「日田ブランド」として、市内各公共施設、家具、下駄、クラフト製品などに使用されていた。

福岡県南部に位置するみやま市は、市全体が平地であり、年間日照時間が2,000時間を超える気象状況であるために、平成27年11月より新電力会社「みやまスマートエネルギー株式会社」を立ち上げ電力販売を行ってきた。電力調達は市内に設置されたメガソーラー、各家庭の太陽光発電の余剰電力、九州電力から行き、その電力をみやまスマートエネルギー株式会社が管理して、「エネルギーの地産地消」を積極的に行っていた。

福岡県小郡市では、平成28年に策定した都市計画マスタープランをもとに、なだらかな丘陵地と田園地帯という特性を活かし、概ね20年後の将来を見据えて、土地利用、交通体系、施設、景観等を計画的に整備していた。各視察先での素晴らしい取り組み、または課題を、今回の視察で得た情報をもとに秩父市でも取り組めるようにしていきたい。

【 まちづくり委員会視察を終えて 本橋 貢 】

大分県日田市では、森林・林業・木材産業振興の取り組みについて説明を受けた。市内には2つの森林組合があり、平成27年時点の組合員数は8,913人、林業就業者数491人、製材所58社である。平成10年には、造成面積40.3haの広大な敷地に約37億円で「日田市高度総合木材加工団地」（ウッドコンビナート）を建設し、日田市はもとより大分県の木材産業をリードしている。また、林野庁、県、市の補助金を活用し、日田材の需要拡大、PR、人材育成で林業・木材産業の活性化に取り組んでいる。木材産業の歴史・規模は秩父市と比べようは無いが、31年度から始まる森林環境譲与税の有効活用の具体的な取り組みが大事である。

福岡県みやま市では、スマートエネルギーの説明を受けた。みやま市は日本一である日照時間の長さの利を生かし、メガソーラー発電等のエネルギーを基盤にした地域活性化に取り組んでいる。地域資源を活かし、安定した雇用で活力ある地方創生を目指しての先進的な事業で魅力もあるが、九州電力では、太陽光発電事業者に発電の一時停止を求める「出力抑制」を実施した。太陽光発電事業者にとっては収益悪化要因となるため、将来的な再生可能エネルギー革命の足かせになると懸念される。様々なリスクを回避する取り組みが大事。

福岡県小郡市では、都市計画マスタープランの説明を受けた、小郡市と秩父市では、面積・地形が余りにも違うので比較できないが、小郡市は平坦な土地なので水害対策が課題である。今回の行政視察で一番感じたことは、止めることのできない人口減少に、智慧を出し合いスピード感を持って具体的な取り組みを進めることが大事である。

【「森林・林業・木材産業の振興」について（視察報告） 松澤 一雄】

まちづくり委員会として、日田市の「森林・林業・木材産業の振興」、みやま市の「スマートエネルギーの取組」、小郡市の「都市計画マスタープランの策定」について行政視察をしたが、この中、日田市の「森林・林業・木材産業の振興」について報告する。

日田市は北九州のほぼ中央部に位置し、市の中心部を筑後川の上流である三隈川等が流れ、面積川666km²、人口66,000人、森林面積が83%を占める比較的に当市と似ている状況である。また古く江戸時代には天領として栄え、夏には、「祇園の曳山行事」の祭りがあり、これがユネスコ無形文化遺産に登録され、勇壮な日田祇園祭が行われている。

日田市の森林政策は、森林の持つ木材生産機能のみならず、豊かな水を育む水源涵養機能や土砂災害防止、生物多様性保存、文化・レクリエーション形成等市民生活に密接するかけがえない資産に鑑み、「日田もりビジョン」を策定し、長期的な取り組みを行っている。

ビジョンの策定に当たっては、豊富なスギの人工林資源、原木市場の発達、専門化された製材工場と木材加工業の集積地の下に、現状での森林・林業・木材産業の持つそれぞれの課題を分析し、施策の展開を図っている。現地視察として40haに及ぶ高度総合木材加工団地（ウッドコンビナート）を見学したが、その中は、7つの原木市場を抱え、市内外から供給される強力な集荷能力ときめ細かな選別の下に、各所の製材所に送りだされている。

また、ビジョンの掲げる3つの施策、「もりを守り・育てる」、「もりを活かす」、「もりでつながる」は、来年度からの森林環境譲与税の対象にも考えられ、大いに参考となった。